

3.『伝統文化』の保全・再生・創造

地域住民自身が地域の『伝統文化』の価値に気づく…STEP 1

地域の祭りや伝統芸能・工芸・技術・様々なしきたり等、まず、最も身近な住民自身が地域固有の『伝統文化』の存在を認知し、価値に気づくことが最初のステップとなります。

地域社会の主体である住民がまず、大切な共有財産である『伝統文化』の存在を把握し、重要性に気づき、地域社会全体として共通認識を持つしくみづくりが必要です。

●農山漁村の『伝統文化』は貴重な地域資源

地域固有の伝統文化は地域全体の共有財産であり、地域への愛着や地域づくりへの参加意識を育てる貴重な資源です。一度やめてしまうと復活が非常に困難となる祭りやしきたりの継承、後継者の存在しない消えゆく伝統芸能・工芸・技術等には、消滅の危機にある貴重な文化があふれているのです。

しかしながらこうして伝承されてきた文化は特に芸術の創造を意図して維持・継承されてきたわけではなく、“生活の歴史そのもの”である、という特徴を持っています。その伝承に長年たずさわってきた方々は、普段の生活に身近すぎて、価値あるものとして意識していない場合も多々あります。そのため、次世代に行動のしきたりだけを伝え、それが今まで伝えられてきた“いわれ”や“ゆえん”“変化の経緯”等は説明されてこなかった場合が多いのです。

伝統文化は、“いわれ”や地域との深い関連と共に伝えられると、大切な物として認識されますが、それだけの場合、貴重なものと気づかずには価値づけられず消滅していく可能性を持ちます。

『伝統文化』の見つけ方、活かし方のフロー



…『伝統文化』が息づく地域社会を維持・継承していく魅力的な農山漁村へ

『伝統文化』の価値に気づく方法とその効果

『伝統文化』発見の方法例	具体的な手法など	方法ごとの効果例
●住民参加型ワークショップ	地域のお宝探しなどの街歩きと発表会、『伝統文化』要素の整理作業等	<ul style="list-style-type: none"> いつもは車で通過するだけの場所を歩くことによる『伝統文化』の再発見 普段交流を持ちにくい住民相互の考え方を知る機会
●郷土の『伝統文化』に触れる活動 (郷土史研究会、郷土料理会、祭り保存会…)	住民有志による生涯学習活動(お年寄りに昔の話を聞く、蔵の中を調べる、郷土史を調べる…)	<ul style="list-style-type: none"> 外部委託しなくても『伝統文化』を住民自身で再認識し保全していく充実感 地域の中に隠れた知識人の発見・発掘 『伝統文化』の経緯・いわれ等の再発見
●学校主体の活動 学校をまきこんだ地域活動	小学校等の授業や行事、地域の子ども会の中で、地域固有の『伝統文化』を扱う	<ul style="list-style-type: none"> 地域の子ども達に『伝統文化』を伝える一手段となる 地域住民が先生となり子ども達と関わる機会を持つ(世代間交流) 学校(組織・教職員)－地域社会の連携強化



ワークショップによる地域の「お宝探し」活動の事例（岩手県葛巻町）
最初から壮大な目標を掲げず、まず地域に何が存在するのか、大切にしたいのか、住民自分がグループごとにお宝発掘作業。



災害避難場所で帰島後の地域づくりの方向性を話し合う（東京都三宅村）
生活再建方策にとどまらず、取り戻したい『伝統文化』の内容やその復活体制も話し合われる。(撮影：杉山愛氏)

伝承事象調査による『伝統文化』の価値発見事例

中国地域のある山間集落において実施した伝承事象調査の一例です。その地域に伝承されている様々な事象を収集すると表1のようになります。その数は一つの集落の中でおおよそ400にも上ります。さらにこれら個々の事象の内容を検討し、伝統文化の活用を目的として機能別に表2のように整理し、実際の地域活性化活動の内容に応用していくことが出来ます。

景観	生業	食文化	組織	行事儀礼		石仏・板碑	信仰俗信		自然知・利用	伝統的品種
景観	生業1	食文化1	組	行事儀礼1	ボニ	石仏・板碑1	信仰1	鰐供養	自然伝承	稻
麦秋	生業暦	こんにゃく	迫	トンド	彼岸	炎神	サンバイ	信仰5	小鳥殺し	愛國
イデ山	ハガリ	蕗の佃煮	若衆組	虫送り	冬至・夏至	猫神	水神	さいの神	彼岸過ぎての七雪	亀治
春の田(レンゲ)	養蚕	ひしお	娘組	イノコ	棚経	記念碑	地主様	地藏	オキニシカゼ	日之出
吉井川	筏流し	はちのこ飯	姑組	ヒナアラシ	...	道標	地神	大日様	...	吉備穂
雪型 奥津富士の子牛型残雪	肥料・薪炭確保	大根飯	イデ組	野遊び	行事儀礼4	法師の墓	荒神様	辻堂	作占	樺の棒
植林以前の山	牛扱い	ハゼ	...	端午の節句	総日待ち	石くど	正月の天気	小天狗
泉山・花知山山岳信仰	焼米	株	七夕	初午講	他小祠	信仰2	信仰6	コブシの花	穀良都	光明錦
六合放牧場	...	だんご汁	田中株	夕涼み	山の神の日	...	カブ先祖祀り	一宮様	...	美穂選
...	生業2	てのくば	他4株	イモ名月	小正月	石仏・板碑2	甘酒祭り	観音堂	気象俚諺	朝鮮
...	ハエ漁	キビ餅	講	十三参り	送り正月	力石	愛宕様	お大師めぐり	院庄の汽笛	金時糯
...	アマゴ漁	粟餅	一宮講	...	卯月八日	地神	旅の僧の墓	元お大師さま	北東の山霧	神力
...	果樹	そばがき	愛宕講	行事儀礼2	菖蒲の日	地主靈	法印・太夫	金比羅信仰	西の山に薄い雲	...
施設伝承	...	うどん	庚申講	初詣	田植	道祖神	雨乞い	ダイバ様	ミカト(山)	麦
人柱伝承	生業3	だんご汁	日待ち講	花見	五社神講	念仏供養塔	...	淡路様
炎神伝承	木地師	吳汁	月待ち講	万灯さま	かみなり講	如意輪觀音	信仰3	福力荒神	木の葉が白い	白トウ
蛇の住む藪	タタラ	のうさぎ	万人講	夏祭り	庚申様	万人供養塔	家の神	狼様	...	三島
姥捨て淵	炭焼き	ドジョウ	橋講	レンゲ	シロミテ	地藏	藏神様	高良様	泉山の岩	在来短芒
...	野鍛冶	はえ	...	盆踊り	二十日正月	大日如来	オドック様	お鴨様	ウトウノの山霧	紅梅
地名	漆	...	社会伝承	神楽	エビス様	虚空藏様	...	天竺
コックリ曲り、カンスのつる	紙漉き	...	食文化2	トンドをしない	秋祭り	子供の遊び	石仏・板碑3	ヤギトウ	茅野権現	屋根裸
ハマミチ	民具	正月 餅色々	正月2日のトロ口	ムラ入り	ツツジの二番花	弘法大師像	捨て子	竜王様	...	神堂
ヒヅマガリ	牛鞍	節分 鯨	共有地	...	竜王神像	十三参り	畠田小麦
ニシミチ	牛鍬	彼岸 ボタモチ	黒岩イデ山	田ウナギ取り	法華経塚	オカモ様	俗信	ガコ草	コビンカタギ	...
西畑ミチ	馬鍬	代満 うどん	オロ牧野	松迎え	若宮	...	タチアイにあう	ヨモギヤイトウ	チンコ	...
山小屋ミチ	サシ棒	七夕 ぼたもち	カヤ・シバ場	若年様	子供の仕事	宝篋印塔	信仰4	センブリ	...	他
高畑ミチ	負い子	盆 そうめん	...	火種	株きり	六面鐘	ナマメスジ	ユキノシタ	...	大豆 在来
妙腰の道	ツマゴ	仏送送団子	組作業	若水	田植え	五輪塔	イキアイ	キハダ	そば 在来	...
パパゴロシ	肥かご	仲秋 サトイモ	道普請	牛の餅	牛の世話	観音	イボ神	クッカケの松	樹木利用	粟
吉井川の丸太橋	ハイフゴ	亥子 ぼたもち	イデなおし	...	線香立	かがり堂	...	アサドリ	稗	...
歩き道	石炭箱	甘酒祭 甘酒	水路直し	ヌイゾメ他	家型蘭塔	若子様	...	フクラン	柿	色々
馬車道	のぞきめがね	大晦日 鰯	田植組	ゴカンニチ	馬頭觀音	足王様	山上様	ヤマグワ	...	アタマハゲ
神橋	ハナクサ 雜炊	...	百姓はじめ	まむしの神様	クロモンズ
...	十日エビス	マンドウ原	亀石

表1 ○○集落に展開する資源別データ

1.地域認知に資する機能	①自然認知	○景観 ○生業 ○自然知・利用
	②地域認知	○景観 ○社会伝承 ○行事儀礼
	③施設認知	○施設伝承 ○生業1 ○信仰1
2.社会の維持に資する機能	①地域社会関係の維持	○組 ○株 ○講 ○社会伝承 ○信仰2 ○行事儀礼4
	②住民コミュニティーの醸成	○行事儀礼2
	③家の永続・家の絆の維持	○行事儀礼3 ○信仰3
3.地域個性の表現に資する機能	①地域に固有のもの	○石仏・板碑1 ○信仰4 ○自然伝承 ○気象俚諺 ○俗信
	②地域の確定をするもの	○石仏板碑2 ○信仰5 ○行事儀礼1・4
	③村の時間を表現(農村らしさ)	○生業 ○行事・儀礼
4.教育機能	①現在の生活基盤学習	○景観
	②祖先の生活学習(歴史)	○生業 ○食文化
	③実習としての学習(農村体験)	○行事儀礼1 ○子供の遊び ○子供の仕事
5.地域間交流に資する機能	①観光資源	○行事儀礼2 ○景観
	②広域にわたる資源	○石仏・板碑3 ○信仰6
	③地域間の繋がりを保つ資源	○石仏・板碑3 ○信仰6
6.技術的文化資源	①農業生産維持・高品質農産物生産	○伝統的品種 ○生業1
	②特産品生産	○生業2 ○食文化
	③生態系保全	○生業 ○自然知・利用

表2 事象の機能別分類表

○は表1中の大項目、○は中項目です。

また、これら個々の事象は、図のように、それぞれが互いに結びつきいくつかの大きな物語を構成していることがあります。こういった、集落に伝承されてきた「物語」「いわれ」をたどっていくことで、普段何気なく見過ごしているものにも、大切な伝統文化としての価値があることがわかります。

(農業工学研究所 山下裕作氏作成)

“新たな担い手”を地域社会全体で支援する…STEP2

『伝統文化』そのものの評価だけでは、地域で息づくことも自然に維持・継承されることもあり得ません。しかし近年、かつての年代・性別・社会的な立場による役割分担と地縁関係を超えたNPO等の機能集団“新たな担い手”が出現する兆しが見られはじめています。

地域の中に必ず存在する『伝統文化』の“新たな担い手”を再評価すると共に、地域社会全体で支援していくしくみづくり、また、“新たな担い手”を発見・発掘・創出していく地域社会の雰囲気づくりが重要となります。

●『伝統文化』の新たな担い手(地域社会内部の担い手)

伝統文化の維持や保全は、これまでの担い手だけでは困難であることは事実です。

次世代に伝えていくべきと価値評価された地域に固有な文化が、従来の伝統的な継承システムに課題があり、消滅の危機にある場合などは、従来のしくみの単純な復活ではなく、維持・継承のための新たな担い手の発見・発掘・創出、という作業も時には必要となります。

このような中、近年、全国各地において、かつての年代・性別・地域社会の中の立場による役割分担、あるいは班や組等の地縁関係等にこだわらない、NPOのような活動目的を絞った機能集団“新たな担い手”的出現が多くみられる

ようになりました。

地域社会の中で立場上決められた役割を遂行するのではなく、活動内容や機能により、有志のメンバーが個人の意志で活動内容を選択し、主体的に参画できる状況が生まれてきています。

それらは、従来の伝承のしきたりに反する方法であったり、維持・保全・継承される伝統文化が本来の形とは多少異なる結果となる、という課題も存在します。

しかしながら、地域社会全体で大切にしていくべき対象物・担い手・支援方法等を検討しながら一連の活動を行っていく過程自体が大切であり、活力ある地域社会の再形成につながるものとなります。

かつての、年齢や性別、役割分担、地縁関係を超えたNPO的“新たな担い手”

〈保存会結成による祭りの復活〉

…メンバー：老若男女を問わず有志の地域住民、都市に出ていた地元出身者有志

〈消防団の活性化〉

…しきたりの継承：若い世代の地域住民、近隣の町に移っている出身者

〈小中学校の授業で地域住民が先生に〉

…平成14年創設の「生活科」「総合的な学習」：地元の『伝統文化』を住民が先生となり子供たちに継承

〈都市住民の参加と交流〉

…棚田保全プロジェクト（稻作体験）、オーナー制度など…

今後、応援していく地域社会全体の雰囲気づくりが重要

●『伝統文化』の外部の担い手、地域社会の応援団

また、新たな有志組織には、祭りの御輿の担ぎ手、棚田の収穫等に、地域外の都市住民が加わり、力を發揮する場面もめずらしくなくなりました。

伝統文化の担い手として、様々な活動を地域社会が主体となって進めていくとしても、外部の応援団の存在は大きな活力です。

特に、最も力強い応援団は、都市に転出している地元出身者であるかもしれません。共に価値発見をし、役割分担をしておくことにより、将来のUターンを促し、未来の重要な主体に育っていきます。

●『伝統文化』の担い手は地域社会が主体

いずれにしても、都市住民や地域外のNPO等、地元地域社会の応援団として力を借りることも大切ですが、伝統文化を息づかせる“新たな担い手”は地域住民自身であると認識し、自ら取り組んでいく主体性が最も重要です。既存の地縁組織を活用したり、新たなNPO組織がその重要な主体となり、さらに、行政や外部の専門家・都市住民は応援団として支援することで、より魅力的な地域社会が再生され、維持・継承されます。

これらの芽を消さず、地域社会全体で応援していくことができるような雰囲気づくりが重要となっています。伝統文化の“新たな担い手”的創出と支援、新しい維持・継承システムの導入は、地域社会全体が地域の将来を見据えて、自身で判断・決断をしていく重要事項です。

『伝統文化』を活用した地域活動の“新たな担い手”となり得る人・組織

主 体

現役の地域住民が参画する
地域社会・NPO的組織

- 高齢者・子ども達
長く住んできた人々・
地域を最もよく知る人々
(→身近な『伝統文化』
の価値に気づきにくい)
- 地域外居住経験者
(U・J・Iターン者)
外から地域を評価した
経験のある層
(→外部からの視点を持ち
価値に気づきやすい)

応援団となり得る人たち

- 主体に近い応援団
行政や学校組織、現在は都市に転出している出身者(盆・暮の帰省、将来Uターンの可能性)
- その他の応援団
都市住民
地域外NPO的組織
専門家等

『伝統文化』の担い手の再発見、発掘・創出フォロー

次世代に伝える『伝統文化』の担い手(人々・組織)は地域の中に存在する

- 『伝統文化』の“新たな担い手”を地域社会全体で支援していくことが重要!

- 従来の共同作業や活動形態の単純な復活ではなく、維持・継承の担い手の再発見、発掘・創出

- 『伝統文化』の活用能力のある地域社会が、農山漁村の総合的な魅力をひきだしていく

時には、外部応援団の活力により“交流効果(地域活性化効果)”を生み出す

『伝統文化』そのものの“維持・保全”を超え、地域社会によるアレンジ“再生・創造”の次元へ…STEP3

“新たな担い手”を地域全体で支援しながら、『伝統文化』そのものの“維持・保全”を超えて、地域社会によるアレンジ“再生・創造”も視野に入れつつ、『伝統文化』を活用していく活動を計画し、進めていく。このような一連の経過が、『伝統文化』が息づく地域社会を持つ魅力的な農山漁村へと発展していく重要な計画要件となります。

●『伝統文化』を活かした再生・創造とは

地域固有の伝統文化そのものの“維持・保全”は大変重要なことですが、そこにとどまらず、“新たな担い手”を地域社会全体で支援していくながら、伝統文化を活用した活動を現代に生きる私たちが、積極的に参画できる形態にアレンジしていく“再生・創造”的あり方を模索していくことも、魅力ある地域づくりに向けた挑戦の一つです。

郷土料理という伝統文化であれば、従来の料理の味やしきたりを伝承するという重要な使命の他、新たに地元の素材を活用した料理を加えていくことで、伝統文化により彩りを添えていきます。自然の恵みである湧き水という伝統文

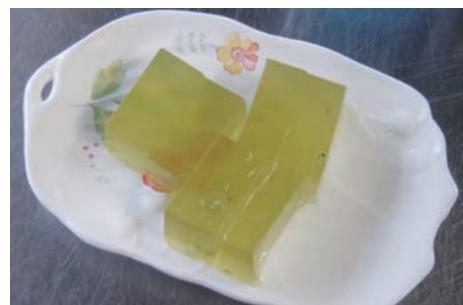
化であれば、地域回遊性も考慮した再整備を行うことで、都市住民にも認知され交流資源となり、地域内外で大切にしていく伝統文化として成長していきます。また、祭りという伝統文化の復活や再生は、ホームページを活用した広報活動で、従来では想像もできなかった大きい支援体制を獲得することもあるでしょう。

これらはほんの一例です。地域固有の伝統文化をアレンジ“再生・創造”していく手法は無限に存在し、地域独自のそれぞれの方法をみつけていくことは、安易な他地域のコピーではなく、地域社会自身が価値づけた地域固有の伝統文化を生かしたデザインコードを掘り起こし、質の高い表現方法を模索することでもあります。

有志の女性メンバー組織による〈郷土料理〉のアレンジ“再生・創造”



地元農産物加工場
(大分県竹田市)
婦人会を基盤とした有志メンバーによる「若葉会」、地元食材「きよみどり」を利用した青豆腐(右)や仕出し弁当づくり、近隣都市百貨店にも出荷中。
(撮影:清水夏樹氏)



農家レストラン「ま・どん
な？」(山形県白鷹町)
伝統的な郷土料理の伝承効果はもちろんのこと、地元農産物を活用した新たな創作料理づくりにも力をそいでいます。試作品・
桑ゼリー(右)



●『伝統文化』の再生・創造がもたらす地域の活性化

伝統文化の再生・創造とは、地域固有の文化を現代において再構築することであり、これらの作業は地域社会の活性化に直接つながっていきます。

さらに、地域住民が主体となって行う一連の活動は、地域活性化のためというプレッシャーの下での義務感によってではなく、一人一人が楽しんで参画していくことが何よりも大切です。

地域のため、地域社会の中の義務作業、という特別な意気込みではなく、特技を活かして有志グループではじめた活動が、思わぬ新たなアイデアや創造性を生み出し、結果として地域社会の活性化につながるといったことも少なくありません。

伝統文化が息づく地域社会を背景に、大人達が楽しく暮らす姿勢は、次世代を担う子ども達に地域の魅力が自然に伝わっていく最も効果的な方法なのです。

地域固有の〈建築材料・技術〉のアレンジ“再生・創造”



地域の地場産業を小中学校校舎の改築の際に活用。日本三大瓦“石州瓦”の産地では地域住民の要望により小中学校校舎の屋根に必ず使用されます。『伝統文化』が現代建築のデザインコードとして活用されている事例。児童の描く「私の学校」(右) (島根県浜田市)

恵まれた自然資源〈湧き水〉のアレンジ“再生・創造”



“湧き水”を地縁組織で活用するしきたりを受け継ぎつつ再整備。夏はビールを冷やし素麺をゆすぐ、地域社会共存の冷蔵庫。(島根県匹見町)



“湧き水”巡りができるような地域回遊性を考慮した再整備。集落内十数カ所で行い、近隣都市住民も水汲みに訪れ、住民と交流も。(山形県山辺町)

古民家〈酒蔵〉のアレンジ“再生・創造”



酒造技術を受け継ぎ、大正建築の酒蔵と隣接する郵便局を一体的に改築、交流施設として再生。地元産の柚や葡萄を使用したワイン等を新たな特産品に。(茨城県那珂町)

伝統ある〈祭り〉をアレンジ“再生・創造”



準備委員会(区長)の面々



平安時代から続く72年に1度の大祭礼を平成15年、72年ぶりに開催。地元の氏子中心の準備委員会を支援するため、有志メンバーによる組織「大祭礼を支援する青年の会」は、ホームページを駆使して協力者を集めと広報作業を担当。現代の情報メディアを最大限活用した祭り支援。

(茨城県金砂郷町)



前回昭和6年時の写真

これら様々な資料を基に、7日間往復75km、500人以上の大行列を再現。

他地域への情報発信・情報交換、『伝統文化』を活用した地域活動の経緯と効果を後世に伝える…STEP4

地域社会による『伝統文化』を活用した活動の成果は、軌道に乗れば終わり、というわけではありません。その後も、他地域への情報発信・情報交換等を行っていくことで、他地域の参考となる、外部からの評価を地元に戻す等、より地域に適した活用ノウハウに改良していくことができます。

『伝統文化』の活用をきっかけに、地域社会が地域活力のマネジメント能力を身につけ、そして、魅力ある美しい農山漁村という財産を後世に伝えることとなります。

●『伝統文化』を支える地域社会マネジメント

地域住民が主役となり、必要に応じて行政の支援、他組織との連携、地域外応援団の協力等を得ながら、地域の伝統文化の価値を見直し、担っていく体制を工夫し、そして、地域社会のために活かす再生と創造の取り組みを行うことを通じて、地域社会固有の文化をマネジメントしていく能力を養うことができます。

魅力ある地域固有の文化を息づかせ、活用していく地域社会の維持・継承は、農山漁村に存在する様々な地域資源の保全と管理を、地域社会主体で担うためのマネジメント、そのものであるといえます。

●『伝統文化』の情報発信と地域社会の成長

STEP4ではさらに、現時点の維持にとどまらず、伝統文化の後世への継承方法も含めて、様々な地域への情報発信・情報交換を試みていくことが効果的です。

地域固有の文化の価値発見の方法、新たな担い手の創出方法と支援方策、文化のアレンジ、再生と創造等、オリジナリティ溢れる経緯と効果を伝統文化と共に情報発信していくことで、新たな地域間交流を生みだすでしょう。それは同時に、地元地域のやり方が外部評価にさらされ、新たな課題を生むことになるかもしれません。しかし、様々な形態による情報交換により、他地域のノウハウや新しい情報を得ることにもつながり、より地元地域に適した魅力的なマネジメントを行う力をつけ、地域社会は成長していきます。

力強く活気があり安定した地域社会の維持・継承と発展、そこで生き生きと活動する大人の姿は、必ず次世代の子ども達に通じるものであり、安心して定住できる地域づくりにつながります。

伝統文化が息づく地域社会の維持・継承は、美しい農山漁村の総合的な魅力を引きだしていくでしょう。